

附属幼稚園だより 第9号

令和2年7月21日発行 文責：室野 亜津子

「したい 知りたい やってみよう」が
いっぱい幼稚園

夏祭りごっこ



年長さんが夏祭りを開いてくれました。年少さんも年中さんもみんなで出かけて大賑わいでした。年長さんは、それぞれアイデアを出し、工夫して作り、友達と協力してお店を出しました。ここに学びがあります。また、誰かを喜ばせることで自己肯定感を高めます。

年中さんと年少さんは、この経験を生かして自分たちの遊びに取り入れたり、「自分が年長さんになったら、お店を出したい。」という願いをもったりします。そうやって、遊びは脈々と続いていきます。

好きな遊びをしている子どもたちは、生き生きと輝いています。

研究から

本園では、平成30年度から「園生活を通して育まれる自己肯定感」をテーマに掲げて研究をしています。子どもたちの育ちに「自己肯定感」がとても重要だと感じ、それを高める要素は何だろう、どんな援助をしたらそれは高まるのだろうかということを日々考えています。

子どもの様子を写真や文章にまとめ「事例カンファレンス」というものを研究会の日に行っています。保育は日々行われ、形に残るものではないけれど、こうやって一場面を切り取り記録におこすことで、私たちは日々の出来事を意識化することができます。それを教師同士で聞き合い、子どもの理解の仕方や、教師の援助がよかったのか、これからさらにどんな援助をしていけばよいかということについて協議をしています。

子どもたちが自由に遊ぶ本園では、その場その場で教師がどんな援助ができるか、その子のためにどんな環境を準備してあげられるか、教師に力量が必要です。一人一人の教師の力を結集して本園の保育の質を向上させています。

幼稚園教育 その1

「幼稚園教育において育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について、これから園だよりで少しずつ紹介していきたいと思います。

幼稚園教育は実は、国が作った幼稚園教育要領という基準があります。それは、だいたい10年に1度見直し改訂されていて、平成29年3月31日に新しくなり、平成30年度から実施されています。今回の改訂で、初めて「幼稚園教育において育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」というものが示されました。この「資質・能力」は幼稚園だけでなく、小学校以上につながる3つの柱で示されています。国が学びの始まりに幼稚園をどんと据えて考え、明示したという点がとても嬉しいことです。そうなのです。学びの土台は幼児期につくられます。

1つ目の柱 知識・技能の基礎

遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになるのか

2つ目の柱 思考力・判断力・表現力等の基礎

遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか

3つ目の柱 学びに向かう力・人間性等

心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか

明後日から夏休みです。遊びや生活の中で、子どもたちは学び成長していきます。存分に遊んでください。毎日の生活を大事にし、自分でできることを増やしてください。様々な体験をさせてください。一回りも二回りも成長した子どもたちに会えるのを楽しみにしています。

保護者の皆様も、お体に気を付けられてお過ごしください。(ないことを願っていますが、万が一事故や事件、コロナ感染等ありましたら、幼稚園にもご連絡ください。)